

授業科目名 <英訳>	西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 助教 藤井 俊之					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目	独書講読 I										
【授業の概要・目的】											
Reinhart Koselleck: Geschichte. In: Geschichtliche Grundbegriffe(Stuttgart 1975)を読む。											
『批判と危機－市民的世界の病因論』等の著者として知られるラインハルト・コゼレックが、オットー・ブルナーやヴェルナー・コンツェとともに編集に携わった『概念史事典Geschichtliche Grundbegriffe』は、20世紀ドイツの歴史学と社会学の一大成果であった。事典中、現代社会の源流と位置づけられる18世紀を基点にして記述されるその諸項目には、ヨーロッパにおける日常的あるいは学問的通念の生成を改めて問い返すための視点が豊富に含まれている。今回は、その項目の一つ「歴史Geschichte」を読む。その際、この言葉が「様々な物語」を意味する複数形から、「歴史そのもの」を意味する単数形によって叙述されていく変化の過程をたどり直すことで、ヨーロッパにおける歴史概念についての歴史的理解を深めたい。											
【到達目標】											
必要分野での文献を読み解けるドイツ語の読解能力を養う。また、文献に現れる引用の読解を通じて、テキストの背景となる歴史的事象を考慮することを学ぶ。											
【授業計画と内容】											
第一回目にイントロダクションを置いて、その後の授業はテキストの訳読を中心に進める。その際に、全員が一度は担当を持つようにする。また、全体の総括として期末にレポートを課す。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点と期末レポートで採点する。授業への出席と、必ず一回は訳読を担当することが求められる。それを踏まえて、期末レポートで各自の理解を測りたい。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
授業に備えて予め文献のドイツ語の予習をすることが必要である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											